

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0892100132		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホームひたちなか		
所在地	茨城県ひたちなか市北神敷台3793-1		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=0892100132-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=0892100132-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年2月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・運営理念に掲げている                  「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートする」                  「様々な機会を通じて、地域の人々との触れ合いを大切にする」                  「心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続ける」                  一人ひとりが毎日を元気に、明るく楽しく過ごしていただけるように努めています。                  ・事業所理念に掲げている「やることある」「居場所がある」「頼りにされる」利用者様、スタッフにおいてもそんな存在になっていけるような環境づくりに努めています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は閑静な住宅地に位置し利用者は今迄と同じ環境で生活することが出来る。玄関には洗面台が設置されている事から感染予防対策に役立ち、家族等はコロナ禍でも予約なしで面会ができ安心して生活に繋がっている。現在はコロナ感染予防のために実施できていないが事業所の各種行事には家族等も招待したり、家族等も参加できる日帰り旅行を大型バスで行く等利用者と家族等の関係維持に配慮したサービスを実施して、職員と家族等の信頼関係の構築の場ともなっている。職員は利用者の今迄の経験や趣味の俳句や編み物が持続できるよう個別支援をしている。事業所の母体はGAKKENグループの系列で全国に330棟展開するグループホームの為、本部を通じて専門的助言を受けられる自立支援ケアのサポート体制を備え職員が安心して支援できる環境を整えている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼において理念を唱和することで、全スタッフが理念の意味を理解し、意識付け、実践へと反映させている。	朝礼時や職員会議で共有するとともに事務所に掲示するなどして意識づけを行っている。頼りにされることで自信に繋がったり、安心感を持って生活が送れるよう支援している。	事業所の理念の中に自立している利用者にもそうでない利用者にも通ずるような地域密着型サービスの意義を踏まえた内容の理念を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、活動出来ておりません。	現在はコロナ禍で地域交流ができていないが、以前は様々なボランティアを受け入れたり中庭を地域の祭りの休憩所としたり、子ども達との交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を活かし、認知症の疾患を抱えているご利用者様の日常生活やその知識について情報の共有と理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者への質疑応答にて、認知症への理解や協力体制について伝え、それについての意見をいただく体制を取っている。	通常であれば家族会も兼ねて開催していたが、現在は事業所のみで開催している。事業所からの利用者状況や取り組みなどの報告はしているが委員からの意見や提案等はない。	委員に意見を聞く機会を設け議事録に残し、運営に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市役所へ訪問し、担当者との共有を図っている。	定期的に市役所に訪問し、市の担当者との情報交換をしたり、意見や助言を貰っている。事業所の困りごとや不明点、事故報告、介護保険での問題点を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けての研修などを開催し、全スタッフが周知している。また、定期的にチェックシートを活用し、振り返りを行っている。	定期的に「虐待・不適切なチェックシート」を活用し振り返りを行っている。研修を年4回開催している。やむを得ず身体拘束を行う場合に備えた同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けての研修会を開催し、全スタッフが周知している。また、定期的にチェックシートを活用し、振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に各種研修等に参加することで、知識を得るように努めている。また、実践者研修や管理者研修過程を終了したスタッフからも学べるように努めている。現在、事業所内では後見人制度を活用している対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には必ずご利用者様やご家族様に説明を行い、ご理解とご納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に「ご意見箱」を設置し、ご家族様の意見や要望を受付しやすい環境を作っている。また、面会時には、スタッフより声を掛けるよう心掛け、ご意見やご要望を直接伺っている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の相談や苦情相談受付窓口を明示するとともに玄関に意見箱を設置している。家族等からは面会時に意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、意見や提案など話し合える環境作りをしている。また、毎月事業所ミーティングを開催し、そこでも意見や提案など話し合う機会を設けている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、リーダー会議やユニット会議等でも意見や提案を聞くようにしている。職員から出た意見に対しては迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日頃からスタッフの勤務状況などを上司に報告し把握している。年に一度、給与の見直し、スタッフ自身がステップアップ出来るキャリアアップ制度を設けている。それにより、やりがいと向上心に繋がりモチベーションアップになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修に積極的に参加できる機会を作り、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の行政や地域の方々、他事業所と情報を共有し、質の向上に努めている。また、新型コロナウイルスが流行する前は市内事業所の集まりなどにも可能な限り参加し、交流を図っていたが、現在、交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面談時に、ご入居様の今までの生活スタイルや好きなこと、不安に感じていること等を伺い、スタッフが理解し対応出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんなことに困っていて悩んでいるのかなど、ご入居前の面談時にお伺いし、個々に合わせたサービス内容の方向性を一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前の面談にて、ご利用者様やご家族様が必要としていることをお伺いし、その情報からスタッフやケアマネージャーと一緒に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様には、活躍出来る場所を設け、やりがいや生きがいを感じて頂けるような支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話でのやり取りの際、月に一度「お便り」にて状況を報告し、ご家族様だからこそ出来ること等、ご利用者様を支えていただけるよう働きかけている。また、ZOOM面会も要求に応じて実施しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様やご家族様からご要望があれば、馴染みの人達との連絡や交流が図れるよう支援している。また、ご家族様(キーパーソン)の許可があれば、外出なども出来るよう支援している。	手紙や電話の取次ぎを支援したり、自宅へ外泊や外出ができるよう配慮している。職員とは馴染みの店に買い物に出かけたり、ドライブに行くなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席の配置やレクレーション時のグループ分け等にも配慮や工夫をし、1人1人が孤立せずご利用者様同士の関わりが保てるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後も何か困ったことなど気軽にご連絡いただけるようにお話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、キーパーソン、ケアマネージャー、スタッフを含めたサービス担当者会議を開催。希望や意向の把握に努めている。	現在意思表示のできない利用者がいない為、利用者の得意とすることを発揮できるように支援している。日々の活動も無理強いすることなく利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や今までの生活環境などを伺い、出来る限り以前と変わらない生活を送って頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用様の日々の言動や様子、状態など、出来る限り細かく記録し、全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、キーパーソン、ケアマネージャー、スタッフを含めてサービス担当者会議を開催している。また、ご家族様面会時などには、お話を伺い、現状に即した介護計画書を立案できるように努めている。	家族等や利用者本人の意向を基に計画を作成している。定期的にモニタリングやサービス担当者会議を行っている。基本半年で見直しているが利用者や家族等の要望や状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記載し、全スタッフにて情報の共有が図れている。またそれにより、介護計画にも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様の要望等に合わせ、レクリエーションを企画し、企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域広報等の情報や運営推進会議などを利用して、地域住民の情報を把握している。また、地元スタッフが多いため、情報共有をし、ご利用者様の暮らしにも活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な往診(恵愛小林クリニックより月二回)を受けている。また、希望時には、以前からの掛かりつけの医療機関にも受診が出来るよう、ご家族様との連携が取れている。	全員協力医療機関での診察を受けている。週1回訪問看護師が来訪している。内科以外は基本家族等が付き添っているが、状況に応じて職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医による内科受診の際は、看護師も同行して頂き、健康管理やその他アドバイス等を受ける機会を設けている。また週一回、訪問看護ステーションより看護師に訪問して頂き、同様にアドバイス等を受ける機会を設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の救急対応病院との連携は図れている。入院された際は、定期的に電話または面会にて症状や状態の把握に努めている。また、メディカルソーシャルワーカー等との連携も図り、早期退院支援にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、施設での対応可能範囲やそうでない範囲についての説明をし、ご理解頂いている。また、ご本人やご家族様、医療機関との連携を図りながら方向性を一緒に考えている。	契約時に説明し同意書を得ているが、看取りに入る際も説明して新たな同意書を得ている。指針には看取りが同時に2名迄などと具体的な記載がされている。職員は年1回協力医療機関の看護師が講師となって研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフには、救命救急講習、事業所に設置されている「AED」の取扱い方法について、定期的な指導、研修等にて実践力を身に付けられる環境を提供している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、消防訓練を実施している。また、事業所内に災害時の備蓄を準備している。	夜間や地震等を想定した訓練を実施している。記録は残されているが次回に向けた課題について話し合うまでには至っていない。備蓄品は本部で管理し、定期的に入れ替えをしている。	避難訓練の後は反省会を行い課題を次回の目標にして行う事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの出来ること出来ないことの見極めをし、個々に合ったサービスの提供や日頃からの声の掛け方や言葉に気を配りながら対応している。	利用者それぞれに合わせた会話を心掛けています。個人情報や肖像権に関する同意書を得ている。プライバシー保護や接遇、人権に関しての内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、様々な選択肢を与え、自己解決が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、昼食、夕食、10時と15時のお茶の時間以外は、個々の自由な時間を過ごせるよう支援している。散歩や買い物など、外出が出来る環境作りにも心掛け、その人らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で服を選び、着替えを行えるよう支援している。また、本人の希望にて定期的な「訪問理美容」も利用できるようにしており、お洒落が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた献立作りなど、ご利用者様の嗜好や意見を伺いながら食事の提供をしている。また、食事の盛り付けや片付けも一緒に行っている。	管理栄養士が献立を立て、調理師が昼食と夕食を作っている。朝食は職員と利用者で作っている。季節に合わせた献立や行事食を提供したり、手作りおやつを利用者と一緒に作るなど、食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが摂れるよう、栄養士にて献立を作成している。個々の食事摂取量についても記録に記載し、状況を把握している。また、毎食の残食もユニットごとに記録記載し、献立作りを活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、毎週月曜日に歯科往診を受けている。(水戸デンタルクリニック)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録を記載し、排泄パターンの把握に努めている。また、トイレで排泄する習慣づけや自立に向けた支援も行っている。	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、夜間も含めてトイレでの排泄を支援している。パットは使用するが、おむつは使用しない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事などの記録、排泄記録などを活用し、個々の状態把握に努めている。便秘予防法としては、食事の工夫や日々の生活に適度な運動を取り入れている。(毎日、ラジオ体操を実施。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日～二日おきに入浴が出来るように支援している。毎日入浴を希望されるご利用者様がいた際には、その対応が出来るように努めている。また、入浴が出来ない際には清拭や足浴などにて対応している。	ゆず湯で季節感を出している。ボディローションやソープを個人で好みのものを持ち込んでいる。入浴の順番は工夫して希望に沿った支援をしている。演歌や童謡をかけて寛げる様に支援している。清拭や足浴は状況に合わせて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔保持を心掛け、安眠出来るよう努めている。また季節に応じた「室温」や「湿度」管理にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の確認を行い、用途の理解にも努めている。また、服薬後の経過観察も行い、症状の変化にも気を付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の「やりがい」が持てるよう、日常の中で様々なお手伝いをお願いしている。(食事の準備、後片付け、清掃、ゴミ捨て、草むしり、畑や庭の手入れ等)。また、気分転換を意識し、塗り絵やビデオによる音楽の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染対策を徹底した上で、ご家族様との外出・外泊を提案し支援している。スタッフも同様、感染対策を徹底し、外出が出来る機会を作っている。	天気の良い時には近隣を散歩したり、食材を買いに行くときには利用者も同行している。利用者は一緒に自分のものを買っている。花見や海浜公園にドライブに出かけたり、系列のグループホームを訪問している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物時はスタッフが同行し、金銭のやり取りが出来る環境を提供出来るようにし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい際には、気兼ねなく使用出来るよう配慮している。ご家族様などから電話取次についても同様。また、手紙などの希望があれば、特別に制限はせず対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けや行事の写真などを掲示し、明るく楽しく過ごせるよう環境作りに努めている。	食堂兼居間は温度・湿度を管理し全体が清潔に保たれ、天井中央のエアコンにはすだれをかけ寒暖差がないように配慮され趣もある。電子ピアノが2台、健康器具が廊下には配置され、ベンチ式の椅子もあり、利用者の憩いの場所となっている。中庭には畑があり、家庭菜園を楽しむ事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、食事以外にも気の合ったご利用者様同士が談笑したり語り合ったり出来るようソファや畳ベンチを設置し、過ごしやすく寛げるよう工夫している。また、中庭スペースも自由に出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご自宅で使用していた家具などを使用していただけるようにしている。馴染みの物を残し、安心して居心地良く生活していけるように配慮している。	入り口には表札や折り紙などを飾っている。居室内にはエアコンやクローゼットが備え付けられている。管理者は使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう説明しており、それぞれに好みのものを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器などの使用でも、通りやすいようにゆったりと広めにレイアウトした造りになっている。全面バリアフリーは勿論、手すりの設置を行い、安全面も確保に努めている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホームひたちなか

作成日 令和 5年 3月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回消防訓練を実施しているが現実味がなく、実施後の反省会の内容が薄いため課題が不明確である。	地域の方にも協力して頂き本格的な訓練を実施。 消防訓練後の反省会を実施。課題を出し現実的に備えた体制づくりをす	次回4月の消防訓練には火災発生を想定し近所の方に声掛けし協力して頂く。 出来るだけ多くのスタッフ参加で反省会を実施し今後に繋げていく。	1 ヶ月
2	4	コロナ過の中、事業所のみで開催。委員の方やご家族には書類を郵送しているが、委員の方からの意見を頂くことが出来ていない。	委員の方からの意見をもらえるような書類内容にする。	3月の運営推進会議の書類の中に返信用封筒を入れる。5月の会議には参加して頂けるような取り組みをする。	1 ヶ月
3	1	事業所理念が自立している利用者に通ずるものではない。あり、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容ではない。	理念が古いものであり新しくする必要がある。スタッフにも考えて頂き、全スタッフが理念の意味を理解し実践へ反映出来るようにする。	自立している利用者、そうでない利用者にも通じる新しい理念を考える。	1 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。